

スポーツ庁 御中

令和7年度 スポーツ産業の成長促進事業
「スポーツホスピタリティ推進事業」

ガイドブック活用研修会の開催

【実施報告書】

令和8年3月

株式会社JTBCコミュニケーションデザイン

目次

1. SAGAアリーナ(佐賀県) ガイドブック活用研修会	実施概要・プログラム構成	P3
	会場計画	P5
	実施内容	P6
2. トヨタアリーナ(東京都) ガイドブック活用研修会	実施概要・プログラム構成	P10
	会場計画	P12
	実施内容	P13
3. 研修参加後のアクション(参加者への事後調査)		P16



1

SAGAアリーナ(佐賀県) ガイドブック活用研修会 実施報告

SAGAアリーナ ガイドブック活用研修会 実施概要

【実施概要】

- 実施日時:令和7年11月21日(金) 13:00~18:00 ※受付開始12:30~
- 実施会場:SAGAアリーナ 3階デルタ00
佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



● 募集・参加人数

- ・募集定員:50名

※各団体2名まで

※2名で参加の場合、同行の1名は、申込団体の連携団体も可とした。

参加者を広く募るためチラシを作成し、スポーツ庁WEBサイト・SNSで発信を図ったほか、当社及びJTB、デロイトトーマツ等当事業で連携する各社からも関係性のあるスポーツ団体等に周知を図った。また、事務局メールアドレスを設置し、各参加希望者については個別に連絡を行い、開催までフォローを入れた。

当日来場者数:16団体・22名 16団体 ※別途関係者・オブザーバーとして20名が参加

【参加団体名】

- ・ TSP太陽株式会社
- ・ 株式会社佐賀バルーンーズ
- ・ 佐賀県
- ・ 佐賀バルーンーズDAO
- ・ 公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
- ・ 公益社団法人日本馬術連盟
- ・ NPO法人A-lifeなんかん
- ・ サガン鳥栖
- ・ アルバルク東京
- ・ エームサービス株式会社
- ・ ライジングゼファーフクオカ
- ・ JTB福岡支店
- ・ JTB佐賀支店
- ・ 千葉ジェッツ
- ・ 宮崎県庁
- ・ テゲバジャーロ宮崎

【プログラム全体構成】

開始時間	種別	セッション	内容	講師・トークゲスト	予定時間	
AM時間帯：会場準備						
12:30	受付開始				30	
13:00	開会・ご挨拶		司会による冒頭説明・スポーツ庁ご挨拶	スポーツ庁吉屋参事官	5	
13:05	冒頭	会場となるアリーナのご紹介	佐賀県ご担当者より、ご挨拶及び会場となるベニユーの特徴や活用概況等	佐賀県庁 宮原様	10	
13:15	<第1部> スタジアム・アリーナ等 ベニユー視察ツアー	アリーナ内FOH・BOHの視察	FOH：VIP専用動線→ラウンジ→VIPルーム等 BOH：パントリー等	全参加者2班に分かれ、 それぞれ順番に視察	50	
14:05	休憩（10分）					
14:15	<第2部> ガイドブック 活用研修会	セッション1	①スポーツホスピタリティとは？ 及び事業フェーズ別実践セミナー	スポーツホスピタリティとは？及び事業フェーズごとの実施ポイントや心構え	JSTP 倉田様	60
15:15			②ゲスト講師による スポーツホスピタリティの取組紹介	最新鋭のベニユーを持たずとも、地域性や創意工夫により、ホスピタリティを実施している事例	テゲバジャーロ宮崎 石原様・田口様	20
15:35		質疑	①・②に対する質疑			10
15:45	休憩（10分）					
15:55		セッション2	プランニングフェーズを体験する ワークショップ	「プランニングフェーズ」を、講師指導の下で体験 →ホームベニユーのホスピタリティ環境分析やチームアセットのアセスメントを行い、参加者自身が実際に行えるスポーツホスピタリティの構想を考えてみる。	・JSTP倉田様 ・テゲバジャーロ宮崎様 ・JCD	90
17:25	ご挨拶・事務連絡		スポーツ庁ご挨拶・事務局より事務連絡	スポーツ庁中村様	10	
17:35	<第3部> ネットワーキング		参加者＋講師＋スポーツ庁が参加		30	
18:05	散会					

■ 第1部：アリーナツアー

冒頭にアリーナ担当者より施設概要のご説明を頂いた後、2班体制でアリーナツアーを実施。VIP動線をはじめ、3Fフロアにある各ルーム、パントリー等を視察し、アリーナ担当者も各班のアテンド役として同行頂いた。このアリーナツアーを通じ、参加者にSAGAアリーナが保有するホスピタリティ環境や、施設に講じられた工夫等を理解頂いた。

■ 第2部：ガイドブック活用研修会

第2部は「ガイドブック活用研修会」として、2つのセッションで構成した。

参加者には予め指定した座席に着席頂き、以下の講義・ワークに参加頂いた。

【セッション1】

- ・スポーツホスピタリティガイドブック執筆者でもある倉田氏による「スポーツホスピタリティとは？事業フェーズ別実践セミナー」と題した講義では、スポーツホスピタリティの実践にあたっての基本的なポイントや心構え等についてお話を頂いた。
- ・続いて最新鋭のベニユーを持たずとも、地域性や独自の工夫を取り入れながらスポーツホスピタリティを実践している好事例として、テゲバジャーロ宮崎の石原氏および田口氏より、同社の取組についてお話を頂いた。

【セッション2】

- ・セッション2では、実際に「プランニングフェーズ」を体験するグループ形式のワークショップを開催。グループワークでは、各自のホームベニユーのホスピタリティ環境分析、チームアセットのアセスメントを行い、各参加者が自チーム・自地域で実践可能なスポーツホスピタリティのプランニングを行い、相互に発表を行った。
- ・このグループワークを通じて、スポーツホスピタリティ事業の根幹となる「プランニングフェーズ」の“さわり”を体験頂いたことで、事後に各団体で同様の取組を行うことを促した。

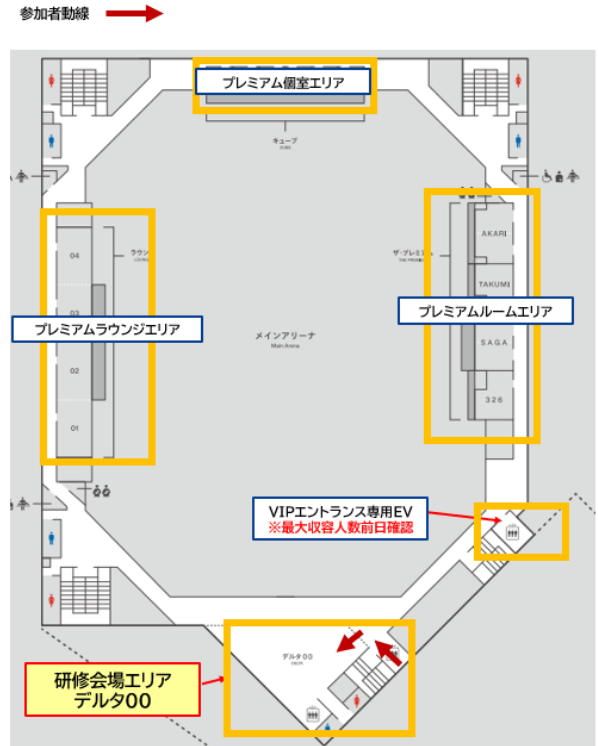
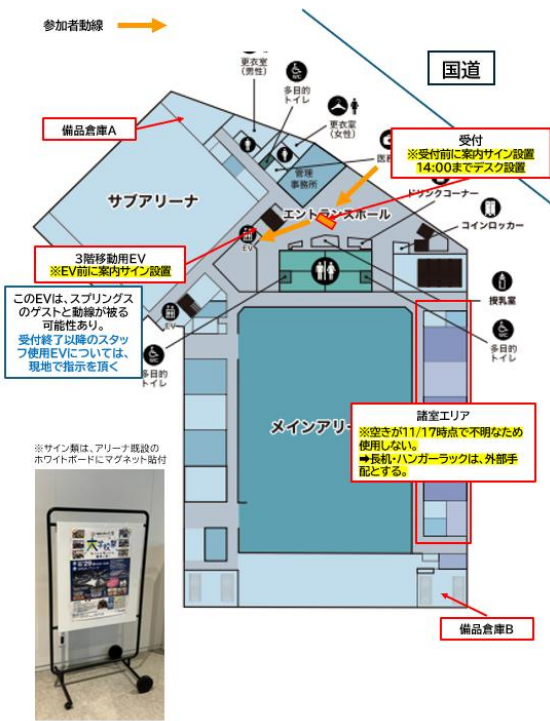
【会場計画】

●受付・動線

- ・ SAGAアリーナメインエントランス正面に受付デスクを設置。
- ・ 受付後に3Fフロア専用のエレベーターで上階へ移動頂く動線とした。

●研修会会場

- ・ 研修会はSAGAアリーナ3Fの「デルタ00」で実施。
- ・ オープンスペースであるが、稼働間仕切りを締め、個室として使用した。



●研修会場レイアウト(デルタ00)

- ・ 後半セッションがグループワークとなることを踏まえ、当初から島型のレイアウトを設定。(全6島/1島あたり3~5名が着席)。各島の配席は、参加者のスポーツホスピタリティ経験度合いを踏まえ配席。
- ・ 各座席に事前配布資料とお水と電源タップを用意。



SAGAアリーナ ガイドブック活用研修会 実施内容

【受付関連】

●受付時間 12:30～14:00

※デスク設置時間が限られていたため、遅参者は到着次第個別に事務局へ電話を頂く対応とした。

●受付フロー

- ・ 名刺を2枚お預かり(名刺1枚は事務局保管)
- ・ 参加者リストで氏名を確認
- ・ ネームホルダー(参加者層付 ※右記)に名刺を入れてお渡し・着用
未申込者の来場など、イレギュラーが発生した場合はスポーツ庁と協議としていたが、イレギュラー来場は発生しなかった。



第一部:アリーナ説明・アリーナツアー

【アリーナ説明】

- アリーナツアーを前に、佐賀県SSP推進局コンベンションチーム宮原様よりSAGAアリーナの特徴や活用概況等についてご説明を頂いた。

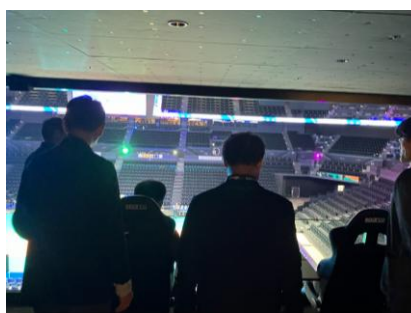
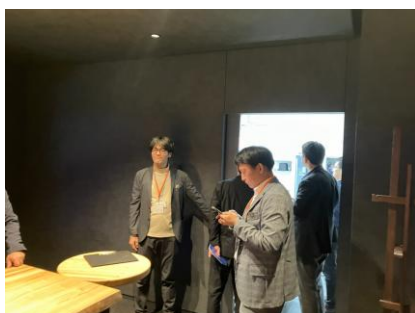


【アリーナツアー】

- 上記の説明を受けたあと、2班に分かれてのアリーナツアーを実施した。

ツアー経路

1階VIP専用入口→専用エレベーターにて3Fへ移動
→プレミアムラウンジエリア→プレミアム観戦エリア→プレミアムルームエリア



第二部:ガイドブック活用研修会

- 実施内容:ガイドブック活用研修会 セッション1-1
「スポーツホスピタリティとは?事業フェーズ別実践セミナー」
講師:株式会社ジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミア 倉田 知己氏

スポーツホスピタリティの理解のために、ホスピタリティ産業の概念やスポーツホスピタリティに取り組むことの意義・メリット等についてお話を頂いたうえで、スポーツホスピタリティに取り組む上での4つの事業フェーズ別のポイントを事例も交え実践的なレクチャー頂いた。



- 実施内容:ガイドブック活用研修会 セッション1-2
「テゲバジャーロ宮崎の取組」講師:テゲバジャーロ宮崎:石原氏、田口氏

J3のクラブにおいて、ホームスタジアムに「テラスシート」を新設し、地域農家等と連携することで宮崎ならではの飲食サービスを提供するスポーツホスピタリティの事例をご紹介します。スポーツホスピタリティにおける地域性を活用したソフトサービスの重要性をお話頂いた。



講義後の質疑応答では、以下のような質問が参加者から寄せられた。

- ・ スポーツホスピタリティの価格設定の目安とは?
- ・ スポーツホスピタリティプログラムを実施することは、行政の視点ではどのようなメリットがあるか?

● 実施内容:ガイドブック活用研修会 セッション2「グループワーク」

冒頭で倉田氏に主旨説明を頂いた後、参加者がアセスメント・プランニングを行うグループワークに挑戦頂いた。実践的なワークとすべく、各参加者には自身の団体が保有するアセットやベニューに基づいてプランニングを行って頂くこととし、ベニューを保有しない、特定のコンテンツを持たない団体の場合は、他メンバーに合流頂く形式を採った。

〔実施内容〕

- ・ 自団体が持つハード・ソフトリソースの洗い出し
- ・ 実際にスポーツホスピタリティサービスに活用できそうなハード・ソフトリソースの抽出
- ・ スポーツホスピタリティサービスを販売していきたいターゲット像の想定
- ・ サービスの方向性・アイデアのプランニング
- ・ 各班ごとの発表

本来は団体内でじっくりと取り組んで頂くべきプランニングフェーズを、模擬的に短時間で体験頂いた形であったが、非常に盛況かつ闊達な議論が交わされた。実際に他者に対しアウトプットを頂き、他チームの発表内容も聴いて頂くことで、今後各団体内で取り組むにあたっての学び・気づきを得て頂いた。





2

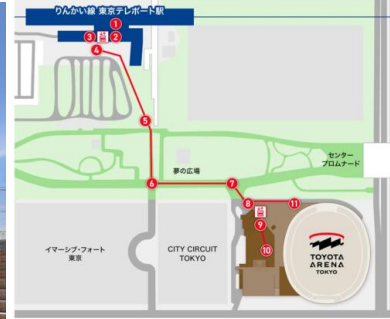
トヨタアリーナ(東京都)
ガイドブック活用研修会
実施報告

トヨタアリーナ ガイドブック活用研修会 実施概要

【実施概要】

● 実施日時:令和8年1月26日(月) 13:00~18:00 ※受付開始12:30~

● 実施会場:TOYOTA ARENA TOKYO プレミアムラウンジ
東京都江東区青海1丁目3番1号



● 募集・参加人数

・募集定員:50名

※各団体2名まで

※2名で参加の場合、同行の1名は、申込団体の連携団体も可とした。

⇒佐賀開催時にあった問合せを踏まえ3名様以上でご参加希望の場合は、事務局までお問合せを頂く形としたが、定員枠を上回る応募があったため、各団体2名まで案内を統一した。

参加者を広く募るためチラシを作成し、スポーツ庁WEBサイト・SNSで発信を図ったほか、当社及びJTB、デロイトトーマツ等当事業で連携する各社からも関係性のあるスポーツ団体等に周知を図った。日本で最先端のホスピタリティ施設で持ち、首都圏でアクセスのよいアリーナでの開催ということもあり、申込者の競技種目や活動エリアは多岐に亘った。

当日来場者数:29団体・50名 ※別途関係者・オブザーバーとして20名が参加

【参加団体名】

- 株式会社群馬クレインサンダーズ
- 埼玉上尾メディックス
- さいたまブロンコス
- (公社)日本ボクシング連盟
- 公益社団法人日本プロサッカーリーグ
- 新潟アルビレックスBB
- 公益財団法人日本体操協会
- 公益財団法人日本バスケットボール協会
- JTB岡山支店
- 徳島県庁
- PGATOUR
- 日本陸上競技連盟
- TSP太陽株式会社
- 日本自転車競技連盟
- 佐賀県庁
- 静岡県庁
- 東レアローズ静岡
- 日本コンベンションサービス株式会社
- シーホース三河株式会社
- シーホース三河株式会社
- 株式会社日本レースプロモーション
- 公益社団法人日本バイアスロン連盟
- 滋賀レイクス
- 宇都宮ブレイクス
- ぴあ株式会社
- FC東京
- 東京ユナイテッドバスケットボールクラブ
- パナソニックスポーツ株式会社
- 公益社団法人トライアスロンジャパン

【プログラム全体構成】

開始時間	種別	セッション	内容	講師・トークゲスト	予定時間	
AM時間帯：会場（8：00会場入り予定）						
12:30	受付開始				30	
13:00	開会・ご挨拶		司会による冒頭説明・スポーツ庁ご挨拶	スポーツ庁 参事官 吉屋 様	5	
13:05	冒頭	会場となるアリーナのご紹介	アリーナご担当者より、ご挨拶及び会場となるベニユーの特徴や活用概況等	アルバルク東京 アリーナ事業部 部長 林 洋輔 様	10	
13:15	<第1部> スタジアム・アリーナ等 ベニユー視察ツアー	アリーナ内FOH・BOHの視察	FOH：VIP専用動線→ラウンジ→VIPルーム等	全参加者 2班に分かれ、それぞれ順番 に視察	50	
14:05	休憩（10分）					
14:15	<第2部> ガイドブック活用研修会	セッション1	①スポーツホスピタリティとは？ 及び事業フェーズ別実践セミナー	スポーツホスピタリティとは？及び事業フェーズごとの実施ポイントや心構え	JSTP 倉田様	60
15:15			②ゲスト講師による スポーツホスピタリティの取組紹介	最新鋭のベニユーを持たずとも、地域性や創意工夫により、ホスピタリティを実施している事例	テゲバジャーロ宮崎様	20
15:35			質疑	①・②に対する質疑		10
15:45	休憩（10分）					
15:55		セッション2	プランニングフェーズを体験する ワークショップ	「プランニングフェーズ」を、講師指導の下で体験 →ホームベニユーのホスピタリティ環境分析やチームアセットの アセスメントを行い、参加者自身が実際に行えるスポーツホスピ タリティの構想を考えてみる。	・JSTP倉田様 ・テゲバジャーロ宮崎様 ・JCD	95 (ワー70min. 発表30min)
17:30	ご挨拶・事務連絡		スポーツ庁ご挨拶・事務局より事務連絡	スポーツ庁ご担当者様	10	
17:35	<第3部> ネットワーキング		参加者＋講師＋スポーツ庁が参加 ネットワーキング開始前にラウンジ料理の紹介・視察を実施	アルバルク東京ご担当者様	30	
18:10	散会		→最大18:30を目安に各自、自由解散			

■ 第1部：アリーナツアー

冒頭にアリーナ担当者より施設概要のご説明を頂いた後、2班体制でアリーナツアーを実施。各フロアのホスピタリティラウンジ、個室、パントリー、ファミリールームなどをアルバルク東京スタッフにご紹介頂きながら視察を行った。同施設が提供するホスピタリティ環境と、実際にどのように活用されているか等、具体的なイメージを喚起させる機会となった。

■ 第2部：ガイドブック活用研修会

第2部は「ガイドブック活用研修会」として、2つのセッションで構成した。

参加者には予め指定した座席に着席頂き、以下の講義・ワークに参加頂いた。

【セッション1】

- ・ スポーツホスピタリティガイドブック執筆者でもある倉田氏による「スポーツホスピタリティとは？事業フェーズ別実践セミナー」と題した講義では、スポーツホスピタリティの実践にあたっての基本的なポイントや心構え等についてお話を頂いた。
- ・ 続いて最新鋭のベニユーを持たずとも、地域性や独自の工夫を取り入れながらスポーツホスピタリティを実践している好事例として、テゲバジャーロ宮崎の石原氏および田口氏より、同社の取組についてお話を頂いた。

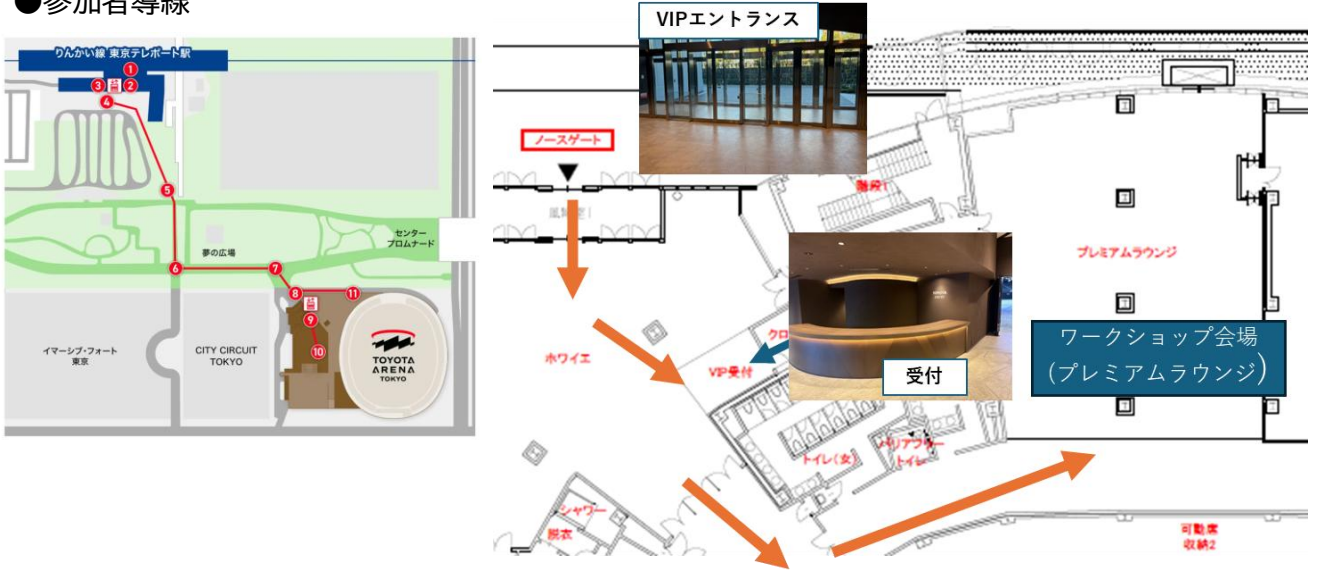
【セッション2】

- ・ セッション2では、実際に「プランニングフェーズ」を体験するグループ形式のワークショップを開催。グループワークでは、各班ごとにホームベニユーのホスピタリティ環境分析、チームアセットのアセスメントを行ったうえで、各班がスポーツホスピタリティのプランニングを行い、相互に発表を行った。
- ・ このグループワークを通じて、スポーツホスピタリティ事業の根幹となる「プランニングフェーズ」の“さわり”を体験頂いたことで、事後に各団体が同様の取組を行うことを促した。

【会場計画】

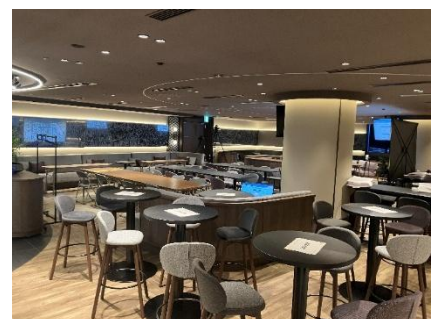
- 受付や研修会場、お客様導線等は、アルバルク東京が普段VIP専用として使用している導線等を踏襲した。また専用ゲートまでの誘導スタッフを2名配置を行った。
- 研修会場はプレミアムラウンジを利用。普段VIPのお客様が体感しているラウンジの雰囲気、参加者の皆様にも感じていただけるよう、基本的にはラウンジの備品や機材などはそのまま活用する形で会場レイアウトを作成した。

●参加者導線



●研修会場（プレミアムラウンジ）

- ラウンジ既存のソファ席やテーブルとアリーナ貸出備品の長机・スタッキングチェア等を組み合わせて最大60名が着席できる会場レイアウトを作成。
- 同フロア内に充電スペースや荷物スペース等も用意。
- メインのスクリーンは会場前方中央に設置。また会場付帯のモニター3つをサブスクリーンとして使用。どの席からでも投影資料が確認できる環境を形成。



SAGAアリーナ ガイドブック活用研修会 実施内容

【受付関連】

●受付時間 12:30~14:00

※デスク設置時間が限られていたため、遅参者は到着次第個別に事務局へ電話を頂く対応とした。

●受付フロー

- ・ 名刺を2枚お預かり(名刺1枚は事務局保管)
- ・ 参加者リストで氏名を確認
- ・ ネームホルダー(参加者層付 ※右記)に名刺を入れてお渡し・着用
未申込者の来場など、イレギュラーが発生した場合はスポーツ庁と協議としていたが、イレギュラー層の来場は発生しなかった。



第一部:アリーナ説明・アリーナツアー

【アリーナ説明】

●アリーナツアーを前に、アルバルク東京 アリーナ事業部部長 林様よりトヨタアリーナの特徴や活用概況等についてご説明を頂いた。

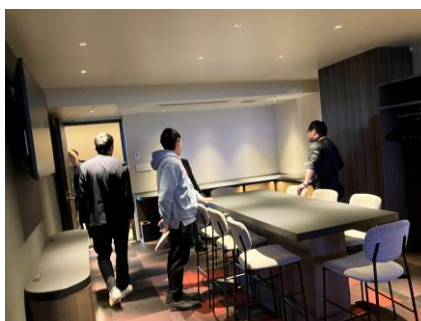


【アリーナツアー】

●上記の説明を受けたあと、2班に分かれてのアリーナツアーを実施した。

ツアー経路

1階プレイヤーズラウンジ→3階メインエントランス&ファミリールーム&パーティーラウンジ等→2階 JALラウンジ・各VIPルーム→1階 専用エントランス&VIP専用駐車場



第二部:ガイドブック活用研修会

- 実施内容:ガイドブック活用研修会 セッション1-1
「スポーツホスピタリティとは?事業フェーズ別実践セミナー」
講師:株式会社ジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミア 倉田 知己氏

スポーツホスピタリティの理解のために、ホスピタリティ産業の概念やスポーツホスピタリティに取り組むことの意義・メリット等についてお話を頂いたうえで、スポーツホスピタリティに取り組む上での4つの事業フェーズ別のポイントを事例も交え実践的なレクチャー頂いた。



- 実施内容:ガイドブック活用研修会 セッション1-2
「テゲバジャーロ宮崎の取組」 講師:テゲバジャーロ宮崎:石原氏、田口氏

J3のクラブにおいて、ホームスタジアムに「テラスシート」を新設し、地域農家等と連携することで宮崎ならではの飲食サービスを提供するスポーツホスピタリティの事例をご紹介。スポーツホスピタリティにおける地域性を活用したソフトサービスの重要性をお話頂いた。



講義後の質疑応答では、以下のような質問が参加者から寄せられた。

- ・ 海外のお客様などを中心に食事の中でビーガンやハラルの方への対応はどうすればよいか?
- ・ スポーツホスピタリティプログラムの値段設定についてどのように考えていけばよいか?
- ・ スポーツホスピタリティ事業を行っていくにあたり組織をどのようにして形成していけばよいか?

● 実施内容:ガイドブック活用研修会 セッション2「グループワーク」

冒頭で倉田氏に主旨説明を頂いた後、参加者がアセスメント・プランニングを行うグループワークに挑戦頂いた。参加人数が多かったため、佐賀開催時とは一部ルールを変更。1グループ5名程度の9つのチームに分かれて頂き、各グループの中から題材とするスポーツコンテンツを一つ選択し、その団体が保有するアセットやベニューに基づいてプランニングを行って頂くこととした。

〔実施内容〕

- ・ 対象とするスポーツコンテンツが持つハード・ソフトリソースの洗い出し
- ・ 実際にスポーツホスピタリティサービスに活用できそうなハード・ソフトリソースの抽出
- ・ スポーツホスピタリティサービスを販売していきたいターゲット像の想定
- ・ サービスの方向性・アイデアのプランニング
- ・ 各グループごとの発表

本来は団体内でじっくりと取り組んで頂くべきプランニングフェーズを、模擬的に短時間で体験頂いた形であったが、佐賀開催時同様に盛況かつ闊達な議論が交わされた。実際に他者に対しアウトプットを頂き、他チームの発表内容も聴いて頂くことで、今後各団体内で取り組むにあたっての学び・気づきを得て頂いた。





3

**研修参加後のアクション
(参加者への事後調査)**

研修参加後のアクション(参加者への事後調査)

佐賀・東京での2回の研修会の参加者に対し、今後のスポーツホスピタリティの実施意向や、本研修会参加後に行ったアクション等、行動変容に関わる事後アンケート調査を実施した。合わせて次年度以降に同様の研修会を行う場合、どのような情報・レクチャーを求めるか等についても意見を伺った。

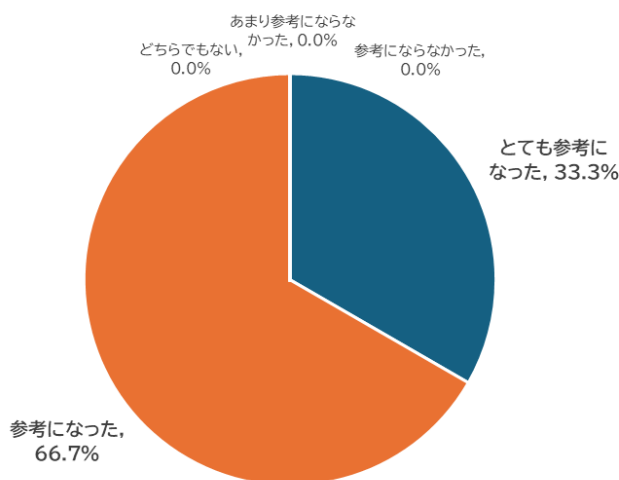
【調査概要】

- ・ 調査方法 :WEBフォーム(Microsoft Forms)による回答
- ・ 調査期間 :2026年2月24日(火)~3月8日(日)
- ・ 調査対象 :2回の研修会(佐賀・東京)のいずれかに参加された団体(計45団体)
- ・ 回答団体数 :18団体

調査集計結果

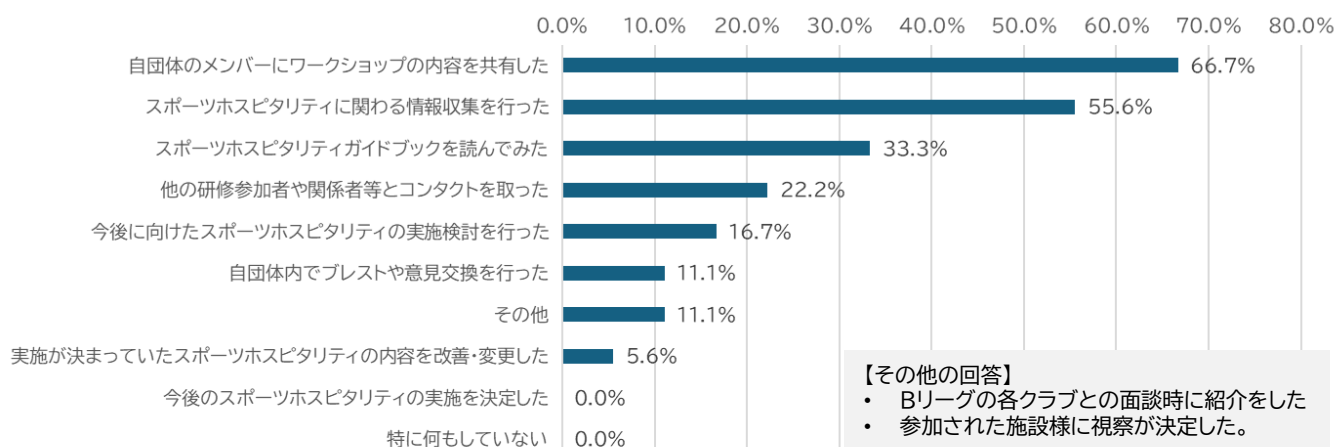
【Q1】:ご参加いただいた「スポーツホスピタリティワークショップ」は、貴団体の今後のビジネス展開のヒントや参考になりましたか？

回答した全団体が「とても参考になった」、もしくは「参考になった」と回答しており、参加者の満足度は非常に高かったと言える。



【Q2】:ワークショップのご参加後、自団体の中で行われた活動がありましたら、全てお選びください。

全団体が何らかのアクションを起こしている。情報共有・情報収集に関わる項目が上位であるが、全体の2割程度が他の参加者・関係者とコンタクトを取っている等、ネットワーク機会としても効果があった。



研修参加後のアクション(参加者への事後調査)

【Q3】:前問で「今後に向けたスポーツホスピタリティの実施検討を行った」、「今後のスポーツホスピタリティの実施を決定した」、「実施が決まっていたスポーツホスピタリティの内容を改善・変更した」のいずれかを選択された方にお伺いします。その内容について、具体的に教えてください。

具体的なスポーツホスピタリティの実施や改善の検討に繋がった参加者が存在していることが見受けられ、「地域性の活用」に関わるアクションを回答した参加者が複数存在している。

今後に向けたスポーツホスピタリティの実施検討を行った方

- ・ お土産については1社から選定して購入していたが、対戦相手にあわせてお土産にして飽きさせないかつストーリー性のあるものにしたところ非常に喜ばれた。(秋田戦なら秋田のお土産)。
- ・ 本ワークショップを受けることにより、今まで以上にスポーツホスピタリティ(飛行機で言うファーストクラスやエコノミークラスの考え方、本質的にはwin-winだということ)の重要性を再認識し日々のスポーツビジネス業務へ励むようになった。
- ・ ライジングゼファーフクオカの新アリーナでのホスピタリティプログラムの造成や今後の動きについて検討。

実施が決まっていたスポーツホスピタリティの内容を改善・変更した方

- ・ ラウンジで提供する食事メニューのマンネリ化を課題としていたため、AWAYチームの特産品や名物をメニューに取り入れるといった工夫に取り組んでいる。

【Q4】:今回と同様の主旨のワークショップに参加する場合、「こういう内容を拡充すべき」というアイデアがあれば教えてください。

さらに多様な事例を知りたいという声が多く見受けられる他、資金や投資効果など、事業開発に関わるレクチャーを求める声も複数見受けられる。

- ・ サステナビリティに関する観点を拡充して頂ければと思います。
- ・ 費用が安価なホスピタリティ事例。
- ・ 海外の事例や日本で実施した世界大会の事例の紹介に写真を使って説明などがあるとよりわかりやすいと思いました。食事内容や装飾・雰囲気のわかりやすい資料があると資料としてより参考になると思います。
- ・ 特にありませんが。ホスピタリティの実施によるクラブ経営へのプラス面(投資とリターンについて)データがあると各クラブでの導入も進みやすいかと思いました。
- ・ お題を先に提示できればいいのでは。
- ・ 2回連続でテゲバジャーロ宮崎様の事例だったのでいろいろな施設のスポーツホスピタリティを聞けるなら何回も参加したい。
- ・ 具体的なアクションを検討するワークの時間が、もう少し長くても良かった。
- ・ テゲバジャーロ宮崎様のような、小規模ながらもスポーツホスピタリティに取り組んでいる事例をもっと紹介してほしいです。
- ・ どこからお金を引っ張ってくるのか、トライアル実施に向けた事業予算活用方法など事例を共有頂けると次の動きが明確になると思います。

【Q5】:今回の内容よりもレベルアップした内容でのワークショップを行う場合、「こういう内容を拡充すべき」というアイデアがあれば教えてください。

ハード環境を備えている場合の事例を聞きたいという声が複数見られるほか、具体的なグループワークの実施アイデア等の声も頂くことが出来た。

- テゲバジャーロ宮崎(いちご社)の事例も素晴らしかったのですが、次回実施するとしたら、公共の施設で、個室などは設置されており、それをしっかりクラブ経営に活かしている事例をお伺いできたらと思いました。
- 既に取り組んでいる施設も増えてきているため、現場の課題感を共有し、議論できるような内容をワンテーマで実施する。
- 有償で良いので実際のゲームを観戦しながらの講習・ワークショップの実施を検討していただきたい。
- ファシリティがある場合、ない場合のパターン分け。
- ワorkshopで決めたことを実施した事例報告会などがあってもいい。
- 各グループの案を聞いたうえで、各グループの案を改善するためのプレストをしても良いと思います。
- 今後もSAGAアリーナのようなスポーツホスピタリティを行うことにアドバンテージがある場所でワークショップを行う場合は、ワークショップの実施場所でのスポーツホスピタリティを想像や考えることも面白いかもと思った。
- Q4記載の内容、ホスピ設計～運営までの流れ等。

【Q6】:今後、貴団体でスポーツホスピタリティに取り組んでみたいと思いますか？

ほぼ全ての団体に取り組意向(ぜひ取り組みたい+取り組みたい)と回答していることから、本研修会が意欲喚起の機会としても機能したものと想定される。

